

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570200818
法人名	社会福祉法人 恵愛会
事業所名	グループホーム めぐみ
所在地	宮崎県都城市太郎坊563-2 (電話) 0986-38-8811
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原町1丁目101番地
訪問調査日	平成19年9月4日

【情報提供票より】(18年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	15.5 人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火鉄骨コンクリート 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 200 円 (※10/1より230円)	昼食 250 円 (※10/1より500円)	
	夕食 350 円 (※10/1より500円)	おやつ	150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.22 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人恵心会坂元医院 東歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は広大な田園地帯に位置し、同一法人が経営する特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・訪問介護事業所等の高齢者総合福祉施設の1つである。利用者それぞれに担当者が決められ毎日の生活の中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望意向の把握に努められて、入居者と職員の関係は穏やかで入居者は自由に生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念は入居者や家族にも分かりやすいように、居間や玄関に掲示されている。夜間のケアの必要な人に対応できるように職員の確保がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に評価の意義が理解され、全員で事故評価の作成もなされている。今後評価をいかして、具体的な改善に取り組まれる事を期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市の担当者、民生委員・公民館役員・家族の代表者・事業所の役員等の参加で2ヶ月に1回行われている。毎回テーマを決めてケアの質を高めるための会議がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に家族に金銭管理表による報告書や広報誌が配布されている。家族の面会時には必ず声かけをして、日常の様子・健康状態を報告して、意見や要望等を気軽に話せる雰囲気が保たれている。玄関ホールには苦情相談窓口が掲げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣に民家がなく地域活動に参加するのが難しいが、法人中心に年間行事が組まれており、ボランティアによる花の手入れがなされている。今後運営推進会議等を通じて自治会や地域への参加を期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所内に文章化された理念が掲示され、利用者がその人らしく暮らす事ができるよう心がけられている。	○	地域密着型として具体的に地域の中で、その人らしく生活する事を支えるケアが出来る様にさらに理念を深めてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや申し送りの中で、理念を掘り下げた具体的なケアの意見の統一がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの人びとに来てもらってお花の手入れ等をしてもらっているが、近隣に民家が無く地域活動の参加がなされていない。	○	運営推進委員会の方々等の協力を頂いて地域活動の参加も期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に評価の意義が伝えられ、全員で自己評価の作成がなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回テーマを決めて会議が行なわれ、災害時の対応の仕方についてのアドバイスを頂いたり、サービスの向上のための取り組みについて話し合いがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に運営推進会のメンバーになってもらい、運営について色々相談にのってもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回金銭預り帳と領収書を送り出納の確認がなされている。面会時に日常の様子や健康状態を報告している。又年4回の広報誌が配布されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は必ず声かけをして、意見や苦情を気軽に話せる雰囲気をつくっている。玄関ホールには苦情相談窓口が掲示されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代がないように十分配慮しているが、交代があったときは、必ず2-3日は指導者のもとに利用者とのかわりについての指導を受け馴染みの関係づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の内容については法人全体で管理されている。復命書について全体の職員が共有できるしくみがある。		グループホーム内で、研修内容の申し送り等を行なってより良い取り組みの効果を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホームの連絡協議会のブロックのリーダーを引き受けていて研修会など積極的に参加している。		他のグループホームの見学等の機会をもって交流を深めて、サービスの質の向上に努めてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に来所していただいて、本人が混乱を招かないように徐々に馴染んでもらえるような工夫がなされている。		利用の前に不安がある時は、食事や入浴のみ等を行なってより良い取り組みを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日のミーティングや申し送りの中で、利用者は人生の先輩だという事が確認されている。梅干つくりや餅つきなど日々の生活の中で、利用者から多くの事を学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれに担当者が決めてあり、ふだんの生活の中から思いを聞き出すようにして、職員全員が一人一人の思いや意向について関心を払い、把握する事に努めている。		さらに、持続的に日々のかかわりの中で言葉や表情などから一人一人の思いを推測してケアの質を高められる事を望みたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、本人や家族の希望が記入されて、担当者を中心に介護計画が作成されている。		本人や家族も話し合いの中においてもらすと、よりよい介護計画づくりに役立つものと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごと、また状態の変化があった時、介護計画の見直しがなされている。		さらに、月に1回は本人や家族の意向や状態を確認し変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直しを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	退居された方の昼間だけの利用の相談に応じた事がある。		今後も地域からの要望があれば、地域住民や利用者が求める多機能性に対応できる体制の検討を続けてほしい。又認知症についての、地域の情報発信も期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に応じた医療機関を受診するようになっていた。又協力医療機関の定期的健康診断や月2回の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体が医療系である事で、職員の対応や他の利用者とのかねあいもあり、具体的にすすめられていない。	○	利用者家族が安心して、終末期を迎えられるよう体制作りを検討してほしい。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日のミーティングの中で、人権を守り心にゆとりをもって対応するように声かけやケアの実際がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人一人の体調に配慮しながら食事時間をずらしたりして個人のペースにあった対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	総合福祉施設であり、食事は母体から配食されていて、利用者だけの食事になっている。	○	食事に関する一連の作業を通じた利用者の力の発揮のためにも、職員と一緒に食事をつくり、共に食事を楽しむ体制づくりを工夫してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間が決めてあり、時間外には足浴やシャワーで対応している。ホーム内の入浴が困難な利用者に関しては週に1回特養の機械浴ができるようになっている。	○	本人の希望があれば、夜間入浴でも対応出来るような支援のしくみがほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の能力に応じた朝掃除や茶パックにお茶をいれる作業などの役割があり得意な分野で力を発揮されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節天候などを考慮して、可能な限り桜見やそうめんながし等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員にも鍵をかける弊害が十分理解されており、日中は鍵はかかっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の防災訓練が年に2回行なわれている。		運営推進委員会等で地域の消防署や警察など地域住民を巻き込んだ連携のとれた体制づくりを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量や食事摂取量の確認がなされており、又むせて飲み込みが悪くなっている利用者にはキザミ食にして食事摂取が多くなるような工夫がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓には季節感あふれる花が飾っており、畳の居間があり寝転んだり思い思いに過ごせる空間がある。元気な都城弁がとびかい活気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇など本人になじみのものが持ち込まれていて、居心地良く過ごせるように工夫されている。		